

子供たちの安全をどう守るか。

養生会 武藤 義彦 議員



市長 命を守るために最大努力を注いでいく。



■安全最優先での園児の散歩

子供たちを巻き込む事故・事件にどう対応するか

質問 全国各地で子供たちが犠牲になる悲惨な事故・事件が相次いでいるが、仙北市での独自の対応策は検討しているか。

答弁 園児・児童の散歩や移動時は、必ず担任、補助員、支援員等が引率して安全を確認している。また、保育園では、園外保育の事前の下見やお散歩マップの作成に取り組

み、危険箇所を職員が共有し安全対策の徹底を図っている。

質問 園児や児童の全ての行動を保育士や教師の努力や注意だけでは防ぎようがない。保護者や行政、警察等の連携以外にも地域を巻き込んだ取り組みが必要ではないか。

答弁 安全対策のために地域から危険箇所等の情報提供を頂きながら子供たちの命を守るために最大努力を注ぐ覚悟で臨んでいく。

新角館庁舎建設2度の入札不調について

質問 2度の入札不調で市民から「プレハブでも十分だ。計画の見直しが必要だ。」との声もあるが、現角館庁舎の危険回避のためにも、3度目の入札不調は許されない状況である。2度の入札不調の原因は建設資材の見積価格算定に問題があったからではないのか。また、予定価格の変動はあるのか伺う。

答弁 県内で確保できない建設資材もあり、設計業者の見積算定率の算定における、市場の動向との差異が不調の原因と捉え、資材の仕様見直し

等の修正作業や建物の意匠見直し等を進めてきた。予定価格に大きな変動はない。

耕作放棄地の環境保全について

質問 耕作放棄地の近年の推移と現地見回り・指導等でも解消されない理由を伺う。

答弁 近年は、事業による農地の再生等により平場の地区では耕作放棄地の解消が進んでいる。また、多面的支払交付金を活用し、耕作放棄地が増加しない対策も講じてい



■耕作放棄地の環境整備に市の助成を

る。解消されない理由は、所有者の高齢化、相続人不明等が挙げられる。

質問 交付金対象外耕作放棄地の草刈りなどを実施した場合、集落に対し市単独の助成を考えるべきではないか。

答弁 来年度に向けて、国及び県の動向も注視し、実態的に対応できる制度の活用を提供していきたい。

スマートシティ先行モデル選定について

質問 5月31日に国交省が募集していた「スマートシティ先行モデル」に選定されたが、具体的な取り組み内容と実証調査予算は複数年になっても継続して支援されるのか伺う。

答弁 具体的な取り組みは①交通モビリティ②水素エネルギー活用③人流データ分析による観光振興④農業へのIoT導入による生産性の向上⑤ドローンによる物流の5つである。2030年度までのロードマップを策定し地域課題の解消を図る事業計画としたい。

(高橋 輝彦記)



蒼生会 高橋輝彦 議員

**新角館庁舎建設
3度目の入札準備は万全か。**

市長

今出来ることは、最大限努力した。

**令和元年度の主要工事
の状況を問う。**

質問 市民がとても心配している新角館庁舎建設工事の3度目の入札準備は万全か。

答弁 万全を期するためにも、見積りの一つ、一つの仕様、意匠等を検討して全体的に設計を見直した。非常に細



■老朽化した角館庁舎

やかな作業を行った。

質問 旧角館東小学校野球場の代替野球場整備は、利用団体の要望が反映されたものになっているか。

答弁 (教育長) 代替施設整備検討会を開催し、500歳野球や学童野球の公式試合が出来る野球場整備を優先的に行う方針とした。

質問 小・中学校の全教室に設置する冷暖房設備工事の工期が8月30日となっているが、設置工事が完了した教室から順次使用することは出来ないものか。

答弁 (教育長) 各学校単位で完成検査後に稼働を許可する予定だ。施工業者には少しでも早く稼働できるように依頼している。

令和元年度の新規事業等を問う。

質問 10月からの幼児教育・保育の無償化に続き、県と市町村が行う幼保の副食(おかず)費の助成事業の概要を伺う。

答弁 副食費の負担は、年収360万円以上640万円未満の世帯が二分の一、年収640万円以上の世帯が四分の三となる。(共に第一子のみ負担で第二子以降は無償)

質問 市、JR、DMO候補法人(観光協会)の三者連携の「観光まちづくり事業」に期待している。事業の目玉である西宮家敷地内の宿泊施設事業の概要を伺う。

答弁 JR秋田支社より、滞在型宿泊施設(古民家風)を展開したいとの提案を受け、

条件等を考慮し、西宮家が最適と考え、(株)西宮家の取締役会で説明し理解を得た。

答弁 (観光商工部長) 宿泊施設は蔵2棟を利用した古民家風のもので、定員は6名程度を想定している。庭を整備し、一日一組、国内シニア世代・インバウンドをターゲットとし、価格は通常のホテルより高めの設定となるようだ。条件が整えば、今年の紅葉シーズンにはオープンする予定である。

質問 国家戦略特区、SDGs未来都市、スマートシティ先行モデルプロジェクト等に指定され、内閣府との特区推進共同事務所も設立し、近未来技術の実証などを行っているが、多くの市民は理解していない。仙北市のプラスの効果などをわかりやすく説明すべきではないか。

答弁 自治体や国の将来の在り方を左右する先進性にあふれた多くの取り組みをしている自負心はある。経費をかけることなく工夫をし、市民の皆様に取り組みを紹介出来ると思う。仕組みを整えるための時間を頂きたい。

(門脇晃幸記)

庁舎建設費用を減らして市民の安全対策 に向けるべきだ



市民クラブ 小木田 隆 議員

市長

老朽化した角館庁舎建替は安全対策としても 優先度が高い

市の財政と公共事業 算の在り方を問う

質問 仙北市の財政は非常に厳しい状況にあり、今後、すべての事業を対象に見直しをするとの方針の一方で、新角館庁舎の建築を20億円以上の額で予定通り進めようとしているが、面積要件も含めて見直しをする考えはないのか。

答弁 向こう数年間は非常に厳しい行財政運営になることが予測され、歳入対策として、市税・使用料等の徴収率向上、市有財産の売却・譲渡など実施し、また、歳出対策としては、大型事業はもちろん、市の単独補助金など全ての事業をゼロベースで見直し、市にとって真に必要な事業以外は廃止も辞さない決意であたる。



■新角館庁舎建設予定地

予算額も膨らまない形で速やかに着工する。それが今できる最善な策と考えている。最低限の機能で将来の仙北市民のまちづくりの拠点として、しっかりと行政サービスを提供することができる市役所を作っていく。

質問 市民からは庁舎建築には予算をかけず、道路や橋などのインフラ整備にもっとお金を使うべきとの声もある。その声に応えるためにも、庁舎建築経費を少しでも低く抑え、市民生活において危険性が懸念される事業について、早急に対応すべきと考えるがどうか。

答弁 公共事業については重要性、優先度の高いところから予算化していく。我慢するところでは我慢しての予算編成にならないを得ないが、現角館庁舎の老朽度は待ったなしの状況で、公共施設の優先順位という考え方からいくと、安全対策としての新角館庁舎というのは順位が高いものと認識している。緊急性のある安全対策はしっかりと対応し、整備に繋げていきたい。

(真崎 寿浩 記)



■老朽化が著しい内川橋 早期の架け替えを



公明党 熊谷一夫 議員

田沢湖の遊覧船乗り場に車椅子や障害者用のスロープを設置できないか。

市長 少し時間はかかるが進展できるものと思っている。

田沢湖畔の整備促進を

質問 田沢湖の観光遊覧船乗り場に車椅子や障害者用のスロープを設置できないか。

答弁 湖面及び水際周辺部の多くは県有地であり、遊覧船乗り場周辺も市で単独整備等ができないため、県に対応を依頼している。少し時間はかかるが進展できるものと思っている。

質問 美しい観光地としての田沢湖畔の活性化策を伺う。

答弁 田沢湖畔の県立自然公園の整備をはじめ、県からの様々な協力も頂いている。今後も県市が連携して各々が協力し合うというスタンスがなければいけないと考える。



■車いすや障害を持つ方へ優しいスロープを

稼ぐ！地方創生であれ

質問 以前、バスの自動走行実験を田沢湖畔で行なったが、無人バス構想はどこまで進んだのか。

答弁 自動走行に向けたデータを取得する段階まで進んでいる。全国に広まった公道実証は、田沢湖畔での実験成功が引き金になっている。

質問 国有林野の貸付面積拡

大の具体的な活用例を伺う。

答弁 (地方創生・総合戦略統括監) キクイモの生産と加工事業の面積が拡大している。豚の放牧を行っている会社

に関する、放牧頭数も増加している。レストランの営業も展開している。

森林環境譲与税で森林整備や人材確保を

質問 税の使途、また譲与基準、森林管理システムとその効果、今後の課題について伺う。

答弁 手入れの行き届いていない私有林の人工林について、所有者の同意を得た上で市が間伐等を行い管理していく。林道・作業道の補修等に、森林環境譲与税は充当できない。手入れのされていない森林に関心のない所有者からどの程度同意を集積できるか未知数のため、事業を行いつながりより良い方策を探っていく。

答弁 (農林部長) 森林を管理する経営体を募集し委託することになると想定している。

人口減少2040年問題

質問 働き手不足に対する対

応について伺う。

答弁 継続雇用延長や定年延長、高齢者の就業促進、育児休暇の改善や短時間勤務、フレックスタイム制度の導入、女性の就業促進、職に就いていない方々の職場への誘導など様々な取り組みを行う。

答弁 (商工観光部長) 市内の労働力確保に取り組む。小・中学生への職業キャリア教育を推進し、地元就職への意識付けをすることで一定の労働力確保推進を図っていく。

質問 健康寿命の延伸や認知症施策の強化をどうするか。

答弁 健康ポイント制度を取り入れた健康増進事業やヘルスケア事業を軸に取り組みを進めていく。

答弁 (市民福祉部長) 市では、脳若さわか教室の実施や、認知症予防と早期発見のため、タブレット端末を活用した取り組み等を行っている。認知症を地域で支え合うことを目的に、集いの場としてのオレソジカフェ7団体に助成している。

(平岡裕子記)

保育料無償化は保護者負担軽減につながるか。



日本共産党 平岡 裕子 議員

市長 県の助成と市独自の助成で負担を軽減する。

医療機関の手数料を問う

質問 普通診断書中、「簡単なもの」「複雑なもの」の違いと、その他の文書料の内容を伺う。

答弁 病院所定の様式であれば「簡単なもの」、生命保険など様々な記入が必要である場合は「複雑なもの」としている。その他の文書料は、診断書・証明書のいずれにも該当しないものを想定しているが、この数年発行実績がない。

子供を産み育てやすい環境づくりを

質問 仙北市イクボス共同宣言は生かされているか。

答弁 宣言をした管理職からは、今まで感じ取れなかった部下の様々な感情が、その意識付けにより把握ができてきていると聞いている。まだ歩き始めで、職場環境が劇的に変わる状況ではないが、徐々に浸透していると受け

止めている。

質問 10月から実施の保育料無償化は保護者の負担軽減につながるのか。

答弁 これまで保育料に含まれていた副食費等については、県と同じ基準で助成する。第2子以降は、これまでどおり市の独自助成により保護者負担を軽減する。

市民の命と暮らしを守るために

質問 免許返納後の生活不安から巡回バス等の要望もあるが、施策を問う。また、モビリティサービス推進事業の白



■仙北市のイクボス宣言の様子

岩デマンドタクシーと角館・抱返り観光周遊バスの選定理由は何か。

答弁 免許返納者には、市民バス・デマンドタクシー等で利用できる1万円相当の回数券を交付し、経済的負担の軽減を図っている。巡回バス等の要望に対しては、時間帯・運行経路、利用者数などを把握した上で、効果が見込める場合には、運行を検討する。

白岩デマンドタクシーの選定理由は、運行距離の短さ、道路状況の良さ、観光周遊バスルートに近い等である。角館・抱返り観光周遊バスについては、インバウンドの2次アクセスの課題解決に効果が見込めることや、運行実績のあることが理由である。



■デマンドタクシーの停留所

質問 水道を待ち望んでいる地域に早期対応を。

答弁 喫緊の対応を必要とする地域に絞って事業を進めている。角館東前郷地区からも水道の早期実現要望を受けているが、令和3年度から新たに策定した水道事業基本計画に基づき進めていく。

質問 使用頻度の高い集会所や会館にエアコン設置を望む声もあるが考えを問う。

答弁 仙北市集落集会所建築費補助金交付要綱では、エアコンは補助対象外となっているが、高齢者の健康面・コミュニティの形成という観点から、エアコン設置を補助対象とする方向で交付要綱の見直しを検討したい。

(武藤 義彦 記)



市民クラブ 阿部 則比古 議員

仙北市の財政は今後大丈夫なのか

市長

反省点も多々あるが、対策を全力で行う

仙北市の財政を問う

質問 これまでの想定を超えている人口の減少や高齢化によって、今後、交付金や自主財源の減少が危惧される中、現在及び今後の事業や、インフラの維持、社会保障費の増大等、市を取り巻くありとあらゆるファクターが財政の破綻を強く示唆している。これまでの財政運営が、しっかりとした長・中期ビジョンに立脚したものであったのか。反省点はなかったのかを問う。

答弁 仙北市は、少子高齢化や人口減少が他県の市町村よりも進む推計がある。

市税、地方交付税等の一般財源の確保は、より厳しさが増していくと考えられるが、地方財政審議会によると、合併算定替えによる縮減後は、人口減に直結した一般財源の減少にはならないような地方財政制度が講じられるようだ。反省点について

ては、全ての事柄がそれにあたるが、例えば庁舎の統合化の計画を断念せざるを得なくなり、思うような戦略的財政運営ができていないということや、市民の方々からの要望に応えるために創設した多くの補助金について見直しが遅れたこと。また、病院事業、下水道事業、温泉事業など、公営企業会計で行財政改革を進めるスピードが遅く、国保会計も含めて一般会計からの繰り出しが増えている現状、公共施設の集約化が進んでい

ないこと。第三セクターの見直しが進んでいないこと。財政調整基金の現在高が減少していること等々、どれも心配している内容である。この後、税金の無駄を省き、自治体として地域住民の安全・安心、幸せを支える本質的な業務に注力して、公共施設の統廃合等を進めながら、歳入対策、歳出対策を全力で実施し、行財政運営に当たらなければいけないと考えている。

質問 地域運営体の存在が財政規律を甘くしているのではないのか。

答弁 この制度は間もなく10年を迎えるが、地域運営体は無くてはならないという評価の一方で、見直しや廃止の意見双方があると思っている。特に制度の否定ではなく、公金の運用の仕方に対して問題があるのではないかと、指摘については、協議の上、改善できるものは改善していきたい。

病院経営は大丈夫か

質問 2つの市立病院については、財政的に大きな負担となっているが、今後どう取り組んでいくのか。

答弁 (病院事業管理者) 一般会計からの繰入れは、平成29年度までは、国からの交付税措置のみに対応したものを繰入れしていたが、平成30年度以降は地方財政計画等も参考にし、算定方法を明確にした上で行っている。繰入額が増加したのは、病院建設による起債の償還によるもので、今後も大きくなる。

経営改善についてコンサルタントにも依頼し、地域ニーズに沿いつつ、一定の収益が上がるよう対策を積み上げていく。

質問 角館病院の精神科病棟が閉鎖になり、36床が空いている。医師不足で再開が難しいのであれば、これを一般病床に変えることはできないのか

答弁 (病院事業管理者) 休床している病床については再開が厳しい状況だ。ただし、いつまでもそのまましておく訳にはいかないので、院内に病床再編検討委員会を立ち上げて、一般病床化も含め利用方法について検討を行っている。

(小木田隆記)



■地域運営体 公金運用のあり方について議論を

遅咲きの候補にオオシマザクラを。



蒼生会 八柳良太郎 議員

教育長

角館にとって都合のいい品種になり得る可能性はある。



■改修されるポケットパークトイレ（伝承館前）

武家屋敷周辺と桜の整備を

質問 今年10年ぶりに古城山の桜が咲いたが、何か施策を講じたのか。

答弁 特別な事はしていない。ウソの飛来が少なく、花のつぼみの被害がなかったと話す方もいる。今後も市民、民間団体と協働で公園・桜の管理に努めたい。

質問 ライブカメラが非常に見にくいとの事だがその理由は。

答弁（総務部長） 最新式のウィンドウズ10以外では見られないという状況が発生している。パソコンだけでなくスマホでも見る手法が適切か検討している。

討している。精査して、ライブカメラ画像を活用できるようにしていきたい。

質問 ポケットパークのトイレの改修を秋の行楽シーズン前にできないか。

答弁 便器の洋式化、誘導看板等も含め全面改修する。国の補助金申請が終わり、採択待ちである。工事等は、11月から12月、供用開始は1月ごろを予定している。

質問 紅葉シーズン前に桜の葉が病気で落ちてしまい景観が損なわれる。葉をまいて、落ちないようにできないか。

答弁 殺菌と殺虫の消毒を年4回実施している。その年毎に虫の付きが違う。臨機応変に対応して秋の紅葉シーズンを迎えたい。

質問 遅咲き桜の候補として、紅八重桜、ヤマザクラ、観山などがあるが、オオシマザクラも候補にできないか。

答弁 花の色や咲く時期が、角館にとって都合のいい品種になり得る可能性はある。興味を持って、しかるべき機関に相談させて頂きたい。



■遅咲きのオオシマザクラ

質問 不快な臭いが武家屋敷周辺、横町、中央通りに流れている。桜美町もかなりひどい。調査や取り組みについて伺う。

答弁（農林部長） 以前からご指摘を頂いている。平成26年・29年には、横町橋と鶴の崎橋付近を調査しているが科学的に測定する事が出来なかった。周辺の養鶏場には、堆肥処理機械の導入や畜舎の改修、脱臭装置導入による無臭化を行った。臭気測定の定期化を進め、原因を究明し有効な対策を講じたい。

庁舎建設を問う

質問 市政報告での「設計内の

容について慎重な検討作業を行っている」とは何のことか伺う。

答弁 建設資材仕様及び単価見直しを行い、設計図書の変更、全体事業費の見直しに至った。

質問 1回目の入札不調の時点で、調査するべきとの意見は出なかったのか。

答弁 1回目の不調の際には、設計に違算はない事の確認はできている。その後、2回目の不調を受け、入札を阻害している原因調査の中で、入札予定企業への聞き取り作業を行って現在に至っている。

質問 庁舎は地域活性化に資するべきと思うがどうか。設計図書の公告や入札日等の日程はどうなるのか。

答弁 心情としては、地元の皆様方に協力、参加を頂きたい。しかし、事業を発注する側は、納品された施設を活用して行政運営を行い、まちづくりを進めていくという事になるため、工事発注の枠組みは、指名審査会の判断に委ねられる。

（熊谷 一夫 記）



蒼生会 高橋 豪 議員

JR 秋田支社との連携による宿泊施設整備
計画性をもった取り組みを

市長 この事業を先駆けとし、計画的に取り組みたい

仙北市、JR秋田支社、市観光協会（DMO候補法人）との連携協定を問う

質問 連携協定の具体的な内容を問う。

答弁 具体的な取り組みとして、現在2つの事業が進んでいる。1つは、昨年度も実施した「五感楽農事業」である。これは、農業体験などを盛り込んだJR商品として今年3回ツアーが計画されており、既に1回目のツアーが催行になっている。2つ目は、連携事業の中心となる、滞在型宿泊施設である。昨年12月にJR秋田支社から提案があり、幾つかの候補地の中から条件面を考慮し西宮家を選定した。6月の株主総会でこれが諮られる予定である。宿泊施設の概要は、蔵2つを活用した古民家風の施設で定員は各6名程度となる。それぞれ1日1組限定と聞いている。

質問 各地で、空き家や古民家などをリノベーションし、町を丸ごとホテルに見立てる「分散型ホテル」が活気を帯びているが、市でも計画性をもった取り組みが必要ではないのか。

答弁 計画的な取り組みについて、将来的にはこの協定をきっかけにして、一定エリア内に民家等を改修した小規模な宿泊施設が点在し、旅行者と住民の交流や、自然・文化体験、食事や温泉を楽しむことができる観光まちづくりにつながっていききたい。JRとの連携は、このプランの先駆けになると受け止め、価値観も違う多様な方々が長く滞在できるように市でも計画的な取り組みを行いたい。



リノベーションされる西宮家

観光地としての景観向上と無電柱化の推進を

質問 伝建群はもとより、それ以外の部分の景観向上を積極的に進めるべきであると考えられるかどうか。

答弁 平成28年から景観条例が施行されている。これにより、例えば高さが10メートルまたは建築面積が500㎡を超えるものなどが届け出の対象となり、これまで37件の事例がある。ただし、屋根のデザインなどについての強制性はない。このため、伝建群以外の箇所でも、看板や戸建住宅など景観を阻害しているという指摘を受けたこともある。

市では昨年、景観づくり市民会議を発足した。今後、市民会議からの意見を参考にしながら良好な景観づくりを進めていく。

質問 無電柱化が進んでいない。今後どうするのか。

答弁 景観づくりにおいて非常に有効な事業と捉えている。歴史的風致維持向上計画の中で無電柱を進めていきたい。

観光客の苦情を真摯に受け止めりピーター増加を

質問 観光客からの苦情を真摯に受け止め対応することがりピーター増加に繋がる。具体例として、武家屋敷駐車場の雨天時に関する環境の悪さについて多くの苦情が寄せられていると聞く。今後どう対応するのか。

答弁 当該駐車場について、昨年度、田沢湖角館観光協会から舗装化の要望を頂いた。

しかし、この用地は伝統的建造物群保存地区内であり、文化財保護法並びに仙北市角館伝統的建造物群保存地区保存条例等に基づき策定した保存計画によれば、道路面における敷地割の復元整備を図るとされている。舗装化を行うには、保存計画の変更が必要となるが、昨年、角館伝統的建造物群保存地区保存審議会に諮ったところ、認められないという結論だった。改正文化財保護法では、文化財の活用も主な特徴となっており、まずは市民と勉強会を開き共有していきたい。

(高久昭二記)